

開館20周年のご挨拶

禅文化歴史博物館長 村松哲文（仏教学部教授）

2022年禅文化歴史博物館は、6月1日に開館20周年を迎えました。20年は人間にたとえれば成人を迎えたこととなります。この間に禅と仏教に関わる数々の作品を収めることができました。また昭和3年に菅原榮蔵氏によって設計された本館は、東京都の歴史的建造物に選定されるなど、名実ともに大学博物館として着実に成長してきました。

開館20周年の記念事業として、本年は道元禅師直筆『正法眼蔵嗣書』修訂本の下書きにあたる草案本のレプリカ作製を、クラウドファンディングによって計画いたしました。そして、全国各地から実に多くの方々の温かいご支援を賜りました。この場をかりて心より感謝申し上げます。今年度は現存するうちの半数を作製することができましたが、次年度もクラウドファンディングによって、残りのレプリカを作製する予定です。これが達成されれば、全国に散逸する道元禅師直筆の草案本を本館で一堂に展示することができます。

さらに特別展示として「曹洞宗両本山永平寺・總持寺貫首の墨蹟」展を開催することができました。大本山永平寺第八十世南澤道人猊下、大本山總持寺独住二十六世石附周行猊下の墨蹟を本館で展示できたことは、曹洞宗立宗の精神によって建てられた本学にとって大変意義深いものです。両本山には、心より感謝申し上げます。ちなみにお二人は、本館がまだ図書館であった時代に、こちらで勉学に励んでいらしたということです。

本号には、講演録2編と論考2編が収録されています。4編とも駒澤大学の歴史を如実に語る資料性の高い論考です。特に中山章先生には本館の建築様式を検討して頂き、当時流行っていた建築様式と本館の比較を興味深く考察して頂いております。小黒浩司先生には、本館が本来図書館であった点に着目して、洋の東西における図書館の歴史について解説されています。どちらも本館の歴史的建造物としての価値がどれほど高いか理解できる内容です。

開館して20年を経た禅文化歴史博物館は、収蔵品も建物も大学博物館として、世に誇れる存在となりました。すでに東京都の歴史的建造物に選定されていますが、今後、建造物としての価値が国レベルで認められるものと確信しています。進化し続ける禅文化歴史博物館は、駒澤大学の象徴として新たなステップを歩みだしています。関係各位のご愛顧に改めて御礼申し上げます。